

アサーショントレーニングと野外教育との関係性

中本 貴規（鳴門教育大学大学院）

1. 目的

本研究では、「野外教育活動の中にアサーショントレーニングを組み込むことによって、参加者のアサーション能力を向上させることができる」という仮説を立て、同時にコミュニケーションの質、量、身体活動量の関係性を見出すことを目的とした。

2. 研究方法

(1) 調査対象

2017年8月9日～8月19日に開催された「ふくしまキッズ in 空知」に参加する小中学生27名（男子10名、女子17名）（年齢 Ave10.74±1.38）を対象に調査を行った。27名を2つのグループに分け、1つを実験群、もう一方を対照群とした。8月9日に実験群にアサーショントレーニングを実施し、8月14日に全体へのアサーショントレーニングを行い、それぞれの群へのアサーショントレーニング実施のタイミングを変えて実験を行なった。

(2) 調査方法

参加者全員に、児童用アサーション尺度（半田2007）、ソシオメトリーの調査を行った。ソシオメトリーに関しては、視覚的評価スケールを用いて、他者評価によるものをコミュニケーション得点として数値化した。身体活動量については、3軸加速度センサーの活動量計を睡眠時以外携帯してもらい、検出された運動量の項目を身体活動量とした。

(3) 分析方法

二群間比較は、Student T-testによる有意差検定を行い、相関関係は回帰分析を用いて分析を行った。

3. 結果と考察

(1) アサーションについて

実験群、対照群のアサーション得点に注目すると、実験群においてアサーショントレーニング実施後、アサーション能力の向上が明らかとなった。このことから、アサーショントレーニングを野外教育活動に組み込むことの有効性が示唆された。しかし、対照群の結果から、アサーショントレーニングの即効性の小ささも伺うことができた。そのため、野外教

育活動においてアサーショントレーニングは、1回限りのものとして独立させるよりも、活動の日数に応じて長期的な見通しを持ち、プログラムを展開していくことが、効果を維持向上させていくために重要であることが考えられる。（図1）

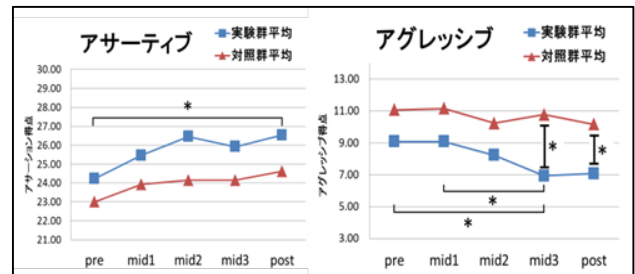


図1 アサーティブとアグレッシブ項目の得点推移

(2) アサーションとソシオメトリーについて

アサーション尺度のそれぞれの項目得点とソシオメトリー得点を重回帰分析にかけたところ、ソシオメトリーの向上に起因していたものとして、ノンアサーティブ得点の向上が明らかとなった。これは、非主張的な態度及び考え方などを変えていくことにより、全体へのアサーション得点が向上、コミュニケーションの質に関与し、コミュニケーションの量を向上させていることに繋がることを示している。また、その過程では、自己表現能力や他者受容、コミュニケーション回数、一緒にいる時間、共感などが密接にかかわってくることも考えられた。

4. まとめ

本研究において、野外教育活動におけるアサーショントレーニングの有用性、またそこから見えたコミュニケーションの質と量、身体活動量の関係性や相互作用のプロセスを考察することができた。しかし、アクティビティごとへのアプローチや個に焦点を当てたような考察が本調査ではできなかつたため、今後検討する必要性が考えられた。

5. 主な参考文献

- 1) 半田将之（2007）児童用アサーション尺度作成の試み，創価大学大学院紀要，29，pp. 239 - 255